

初めての住宅改修工事

～失敗しないために心がけること～

齊藤建築 齊藤 一修

介護保険における住宅改修工事

介護保険における住宅改修工事とは要介護認定をうけた方が、住み慣れた自宅で自立した生活を支援するために、居室、浴室、便所等の改修工事に対して、費用の一部を給付されるものです。具体的な工事内容としては、

- ①手すりの設置 (写真1)
- ②段差の解消 (写真2)
- ③床材の変更 (滑り防止・移動の円滑化) (写真3)
- ④引き戸等への扉の交換 (写真4)
- ⑤洋式便器等への便器の取替 (写真5)
- ⑥①～⑤の工事に付帯して必要となる工事

となっています。給付金額は20万円を上限に本人の負担割合に応じて1～3割の自己負担があります。ここで注意したいことは、住宅改修の対象になるのかならないのか、自分で判断しないことと、自治体によって独自の助成を行っているところもあるので、工事を検討する際には、役所の窓口や専門家に相談することが大切です。

あわてないこと

住宅改修が必要になるパターンはいろいろあります。転倒して骨折、脳梗塞による片麻痺、入院による筋

力低下、進行性の疾患などなど…。いずれにせよ今まで普通に自宅で暮らせていた日常が徐々に、もしくは病気や怪我により突然できなくなり、

不安になることであわてる方が多いですが、まずは専門家に相談することが大切です。リハビリ入院している場合でしたら病院にいる社会福祉



写真-1 | 手すりの設置



トイレ敷居改修前



トイレ敷居改修後

写真-2 | 段差の解消



和室床材変更前



和室床材変更後

写真-3 | 床材の変更

士の方かりハビリの先生でも大丈夫です。在宅の方でしたら地域の地域包括支援センターに電話すればいろんな相談を聞いていただけます。逆に自分で先走ってしまい工事の段取りを進めてしまうと、介護保険の給付をうけられなくなってしまうことがあるので注意が必要です。

工事のプランについて

どんな工事が必要なのか…それを決めるのはなかなか難しい判断だと思います。もちろん自分の家ですから希望する内容は主張していただいて結構ですが、ここも専門家の意見を聞くことが大切です。入院中の場合と在宅の場合を考えてみます。リハビリ入院している方の場合、最近では病院側から家屋調査に出向いてくれるところが増えています。リハビリを担当してくれている理学療法士や作業療法士の先生、社会福祉士の方々が病院チームとなってきてくれます。これに合わせて在宅チームはケアマネジャー、福祉用具専門相談員、住宅改修工事担当が訪問します。かなり大勢で自宅に訪問することになるのであわただしいですが、病院側と在宅側が自宅で情報を共有する大切な機会です。在宅で過ごされている方の場合には地域包括支援センターに相談すれば専門の工事業者を紹介してくれます。すでに居宅の届け出が済んでいる場合は担当のケアマネジャーに相談する方がいいでしょう。

相見積りは必要か？

2018年に厚労省から「複数の業者から見積りをとるように」という指導がされていますが、これは決して「相見積りをとって安い方に頼みましょう」という意味ではありません



変更前開き戸



変更後折れ戸

写真-4 | 引き戸等への扉の交換



便器取替前



便器取替後

写真-5 | 洋式便器等への便器の取替



写真-6 | 便器横のL型手すりに横手すりを連結

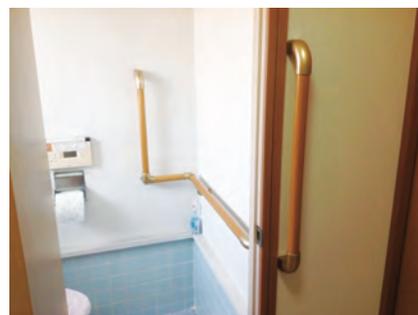


写真-7 | 便器正面から縦手すりまで連結、トイレ外にも縦手すり

ん。もちろんプランが確定したうえで、本人や家族の方が「安い方に頼みたい」という希望であればそれもいいでしょう。しかし、実際には「トイレに手すりが欲しい」という場合でもいろんなパターンがあります。

写真6は便器横のL型手すりに

横手すりを連結させたパターンです。立ち座りの他、衣服の着脱や扉の開閉にも対応しています。

写真7は奥の少ないトイレですが、便器正面から縦手すりまで連結させており、トイレ外にも縦手すりを設けています。



写真-8 | 棚付ペーパーホルダーの棚は「棚型手すり」

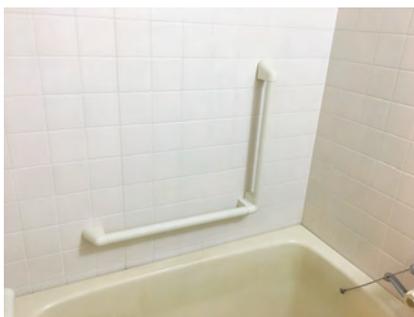


写真-9 | 浴槽横のL型手すり



写真-10 | 洗い場での立ち座りから浴槽の出入りまで横手すり1本で対応

写真8の棚付ペーパーホルダーの棚は「棚型手すり」として使用できるもので、手をついて体重を乗せても大丈夫です。浴室手すりも様々なパターンが考えられます。

写真9は浴槽横のL型手すりですが、よく見かけるパターンですが、この写真の浴室はユニットバスで壁面にタイルが貼ってあります。このような場合、業者によっては「手すりの取り付けはできません」と言われる場合があります。

写真10は洗い場での立ち座りから浴槽の出入りまで、横手すり1本で対応したパターンです。この場合は縦手すりを薦める業者も多いと思いますが、本人の身体状況やご家族の意見などを考慮する必要があります。

写真11は横手すりと縦手すりを組み合わせてT字の逆さまのようになっています。本人の身体状況によっては、このような独自のパターンも考えられます。

写真12は浴槽出入りのための手すりですが、現場に合わせて加工したものです。浴室手すり2~4のように現場加工が必要な場合、不慣れた業者がいるのが現状ですので、相見積りが有効かもしれません。

屋外手すりの場合も、メーカーや施工方法、プランによって金額が大きく変わります。写真13、14はポー



写真-11 | 横手すりと縦手すりを組み合わせてT字の逆さまのようになっている



写真-12 | 浴槽出入りのための手すり。現場に合わせて加工



写真-13 | ポーチの階段部分に手すりを設置



写真-14 | ポーチの階段部分に手すりを設置 (手すりを上げて通り抜け可能)

チの階段部分に手すりを設置した一般的なパターンですが、同じメーカーでも写真14の方は途中を遮断機式にして、必要な時は手すりを上げて通り抜け可能にしています。

写真15、16は同じメーカーの商

品ですが、写真15の方は支柱を立てて施工しており、写真16の方は壁に手すり取り付けられています。

このように「手すりの取り付け」だけ見ても様々なパターンがありますので、複数の業者に見積りを

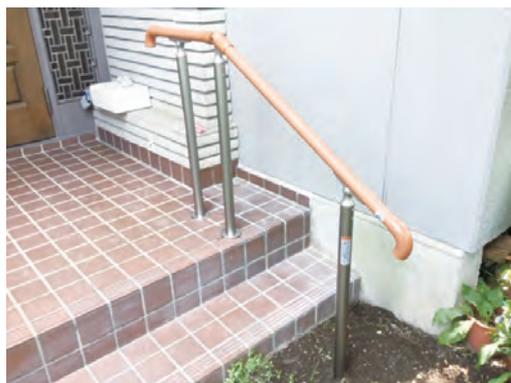


写真-15 | 屋外手すり 支柱を立てて施工

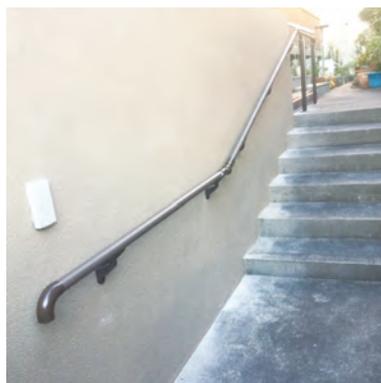


写真-16 | 屋外手すり 壁に手すりが取り付けられている

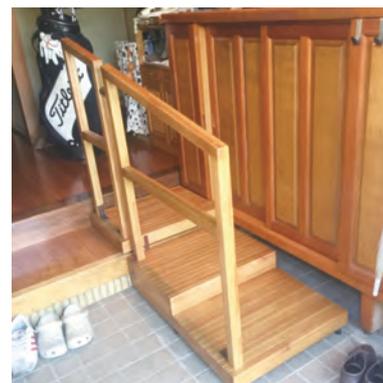


写真-17 | 手すり付踏台による段差解消

頼んだ場合は金額だけではなく、内容が本人や家族のために適したものなのかをよく検証する必要があります。

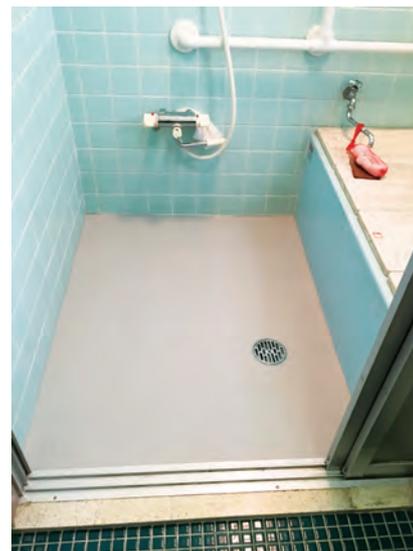
もちろん手すり以外の工事でも手すり付踏台（写真17）は特注製品になるので、業者によって金額やプランに差がでます。

写真18は浴室のタイル床の上にシートを貼った事例です。住宅改修工事では床材の変更での対象になります。滑りにくくなるうえに、冬場の極端な冷たさが解消されるメリットがありますが、この工事は特殊な工事なので不慣れな業者は提案してくれない場合があります。

開き戸を引き戸に交換もよく行う工事ですが写真19は既設建具を利用して引き戸に作り直しましたが、新しい既製品の建具を利用する場合や、建具屋さんによって作ってもらうパターンもあります。もちろんそれは現場の納まりによって最適なものを選ぶことになりますが、業者によって違いが出ることも多いです。



浴室床施工前



浴室床施工後

写真-18 | 浴室のタイル床の上にシートを貼った事例



既設開き戸



既設建具を利用して引き戸に

写真-19 | 既設建具を利用して引き戸に改修

将来の予測はどこまで

住宅改修とは基本的に「今困っている事を解消するために行う工事」

ですので、「ここに手すりが欲しい」とか「この段差をなくして欲しい」という要望を形にするわけです。当然、先の事を心配される方もたくさんいます。「今は大丈夫だけど、念のためここにも手すりを付けてほしい」という発想です。もちろん病気には進行性のものもありますし、年齢を重ねれば筋力低下は当然ですので、この考えは間違いではありません。先を見越した手すりですら防げる転倒があるかもしれません。しかし、今は不要な手すりを税金を使って取り付けることには慎重になる必要があります。進行性の病気で少し先を見越して転倒予防することはいいと思いますが、家の中を手すりだらけ

にすれば転倒予防ができるわけでもありません。住宅改修給付金の20万円は数回に分けて使うことができます。例えば5万円の工事を4回行っても大丈夫ですし、要介護度が3段階上がると20万円がリセットされるルールもありますので、本当に必要な工事を見極めて必要な時に行うことも大切です。実際に症状が回復して要介護認定外の「非該当」になる方もたくさんいらっしゃいます。

生活のスタイルは様々

例えば田舎の古民家を想像してみてください。大きな段差だらけで和室と土間しかない広い家でも上手に暮

らしている方がたくさんいる反面、今どきの段差のないバリアフリー住宅で転倒してしまう方もいます。このことを考えると安心、安全とは人それぞれ形が違うということです。住宅改修のプランで「これが正解」という形があるわけではありません。本人が住み慣れた自宅で自分らしく暮らすことが目的なわけですから、本人やご家族が納得できるように、専門家を交えて形にしていくことが大切だと思います。

齊藤 一修

齊藤建築 代表

<http://saito-kr.com>